

農業者年金で
未来の自分へ安心を
積み立てませんか？
少子高齢化に強い
積立方式・確定拠出型年金です。



- ① 年間60日以上農業従事
 - ② 国民年金第1号被保険者
 - ③ 60歳未満
- 以上を満たせばどなたでも加入できます。
農地権利等の条件はありません！

農振除外申請は令和4年5月31日まで
農業振興地域(農振)の農用地区域になっている農地を農地以外の目的に転用する場合は、農振除外の手続きが必要です。詳しくは広報げろお知らせ版3月15日号または下呂市ホームページをご覧ください。
下呂市農務課 TEL.0576-53-2010

農業者年金に
加入しました！



石田 俊介さん
ほ場/四美
経営形態/トマト
加入年月/
令和3年12月

- 加入のきっかけは、農業は収入が不安定なので将来への蓄えをしなかった
- 農務課や農業委員会の説明で安心できたから
- 魅力を感じた点は、全額社会保険料控除される終身年金で生涯受け取れる

農業者年金は積立方式の公的年金です。納めた保険料は基金により運用され、将来年金として受け取れます。また、全額が社会保険料控除の対象となり節税効果も期待できます。詳しくは農業委員会までお気軽にお問合せください。

**農業者年金で節税しながら
老後の備えを！**

令和4年4月1日発行
vol.20
下呂市農業委員会

下呂市萩原町羽根 2605-1 TEL.0576-53-2010 <http://www.city.gero.lg.jp/> → 産業・ビジネス → 雇用・労働 → 農業・林業

令和2年度 岐阜県農業委員会活動優良表彰 「農業振興部門」を受賞しました！



下呂市農業委員会における令和2年度の活動成果が、岐阜県農業委員会活動優良表彰において「農業振興部門」を受賞しました。これは、岐阜県農業会議と県内の農業委員会において、「1農業委員会1事例づくり」として農地利用の最適化推進の確実な実施を図るために取り組まれているもので、下呂市においては、人・農地プランに沿って担い手への農地集積を進めるとともに、小規模農地は下限面積の緩和により地域で守る取り組みを促したことが評価されました。

これまで農地法3条で農地を取得するためには経営面積が20a(2000㎡)必要でしたが、この緩和により下限面積を10a(1000㎡)に引き下げるとともに、要件を満たせば申請により0.01a(1㎡)から取得できる「別段の面積の設定」の適用を可能としました。この下限面積の緩和から1年が経過した現在では、これらの制度を活用した小規模農地の権利移転の件数も増え、遊休農地発生防止や農業振興、地域活性化への効果が期待されています。

農地の集積については、上原地区においてプランに沿って農地中間管理事業により6経営体へ17aの集積を行いました。しかし同時に、担い手に借り受けてもらうことが難しい小さな農地も存在していることから、この人・農地プランの対象とできないようなこれらの農地をいかにして守っていくかが課題となっていました。昨今では農家数も減少傾向にあり、水路の管理や畦畔の草刈りが行き届かないなどの問題もありますが、農業用水路や畦畔は地域の生活環境にも直結することから、農地の問題を農家だけでなく地域全体の問題であると捉え、小さな農地を守っていく(=地域を守っていく)ために、耕作意欲のある住民や移住者が農地を取得できるよう下限面積の緩和を行いました。

さらに現在、「農地の問題を農家だけで解決しようとせず、地域の問題として捉えてほしい」という思いから、地域で話し合いを重ねて「地域として守りたい農地」を選んでいただき、これらをプランに加えるための検討を進めています。これからも地域の皆様のご理解ご協力を賜り、地域活性化のため農業委員会としてより一層の活動を進めていきたいと考えています。

優良農地は人・農地プランで、小規模農地は下限面積緩和と地域住民で守る！

【令和4年度 下呂市農業委員会総会日程・申請締切日】

年/回	農地法等申請締切日	農業委員会開催日(農地法3条許可日)	年/回	農地法等申請締切日	農業委員会開催日(農地法3条許可日)
令和4年第4回	3月18日(金)	4月4日(月)	第10回	9月20日(火)	10月3日(月)
第5回	4月20日(水)	5月9日(月)	第11回	10月20日(木)	11月7日(月)
第6回	5月20日(金)	6月3日(金)	第12回	11月18日(金)	12月5日(月)
第7回	6月20日(月)	7月4日(月)	令和5年第1回	12月20日(火)	1月6日(金)
第8回	7月20日(水)	8月3日(水)	第2回	1月20日(金)	2月3日(金)
第9回	8月19日(金)	9月5日(月)	第3回	2月20日(月)	3月6日(月)

農地を農地以外の用途で使用する場合には、自己所有地であっても事前に農地転用許可申請が必要です。駐車場や資材置場などの建築を伴わない場合も必要となりますのでご注意ください。農地法では農地の生産力や周辺の土地利用状況等により農地を区分しています。詳細はお気軽に農業委員会事務局までお問い合わせください。令和4年度の農地転用申請スケジュールは左記の通りです。

農地転用には許可が必要です

〈編集後記〉
本年度も農地パトロールが行われました。今年度は衛星データのAI解析を活用したりリモートセンシングを使って調査を実施するという事で、不安はありましたが思ったよりも難しくなく、とてもよくなったシステムで、我々高齢者でもなんとかできました。これからも、このようなAIなどの先進技術を取り入れた農業委員会になっていかなければならないと感じました。
ところで、現代の農業はご存じの通り、後継者不足、担い手不足の状況が深刻です。私も定年後、仲間と共に地元で耕作できない水田を10ヘクタールほど作っており、もうじき70歳になり体力的にも今後のことを考えますが、後継者がいません。
企業等の定年は65歳まで延長され、年金もなかなか受け取れません。ようやく定年になる頃には農業できる体力がなくなっている…本当に深刻な問題です。こういう問題もAIで何とか解決できないでしょうか。(川口 太三)
●編集委員
嶋田 浩・川口 太三・二村 正明・高木 康則・大森 公治

全国農業新聞
NATIONAL AGRICULTURAL NEWS

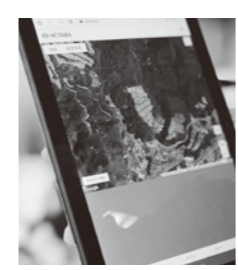
農家の経営と暮らしに役立つ
週刊の農業総合専門誌です。
農業の時事問題解説に力を入れ、
事例が豊富です！

農業者の視点でお届けします

週刊《金曜日発行》 月700円
お申込みは農業委員会まで

全国初のリモートセンシングによる農地パトロールを実施しました！！

下呂市農業委員会では農業委員会が毎年の実施を義務付けられている農地パトロールにおいて、全国に先駆けて衛星データのAI解析を活用したりリモートセンシングを導入しました。(※リモートセンシング：調査対象を直接見たり、触らずに調べる技術)



タブレットに表示された農地地図

従来は紙の大きな地図を広げて、野帳と呼ばれる紙の農地一覧表を確認しながら、農地の状態をチェックしていましたが、このシステムの導入によりタブレット端末1台で位置・地番の確認及び、農地状況の入力を済ませることが出来るようになりました。また、衛星データのAI解析により、どの程度農地が荒れているかを示

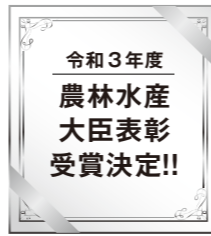
す耕作放棄率を算出することで、客観的な農地の状況判断が可能となり、判断の個人差が少なくなりました。来年度、タブレットの導入が国の補助事業の対象となることから、他市町村の農業委員会からの視察の問い合わせ等が増加することが予想されます。下呂市農業委員会では岐阜県、岐阜県農業会議、サグリ(株)(システム運営会社)と連携し、農地集積や新規就農者の誘致等の「農業を活用した地域づくり」紹介と合わせて、積極的に他市町村の農業委員会の視察を受入れ、下呂市の観光業、地域振興に寄与したいと考えています。(詳細については次ページ)

令和3年度
下呂市の遊休農地面積 **17.8ha**

下呂市農業委員会 視察メニューを造成しました!!

下呂市農業委員会では市内の各地域で進めてきた農地集積や新規就農者支援体制の仕組み等の「農業を活用した地域づくり」の事例を紹介する視察メニューを造成しました。

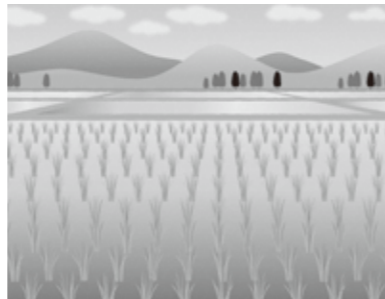
人工衛星リモートセンシングによる農地パトロールが完了したばかりで、十分なプロモーションが出来なかったこと、一昨年から続くコロナウイルスに感染拡大に伴う、緊急事態宣言及びまん延防止等重点措置による活動自粛、移動制限の影響により、現時点では視察の受入れ実績はまだありませんが、この取り組みにより少しでも地域経済の活性化につながることを期待します。



下呂市農業委員会 《初日の必須メニュー》

「農地を守るのではなく、農業を活用して地域・国土を守る!」、「農地活用のコーディネーターとして地域に寄り添った農業委員会」をモットーに掲げ活動している、下呂市農業委員会の基本的な考え方とその取り組みを紹介します。

- ①下呂市の農業の概要及び、農業を活用した地域づくり
- ②リモートセンシングによる農地パトロール
- ③遊休農地対策と農地取得下限面積の引き下げ
- ④農地集積(下呂市モデル)について
- ⑤新規就農者支援体制について



羽根地区メニュー

下呂市内で最も優良な農地を有する羽根地区では、かねてから素晴らしい農地を将来にわたってどのように守っていくかという話合いが盛んに行われており、「南ひだ羽根ファーム」という集落営農法人の設立と同法人への農地集積に繋がってきました。

さらに、現在はその集大成として大規模な土地改良事業を実施しており、下呂市、下呂市農業委員会が推進する「農業を活用した地域づくり」の目指す理想とも言え、その取り組みの背景にある地域力の高さのルーツに迫ります。

- ①地域一体となった集落営農組織の設立と土地改良事業
- ②羽根地区の酒米を利用した造り酒屋見学(天領酒造)
- ③天領朝市見学 ほか



大規模な土地改良事業が行われている羽根地区

上原地区メニュー

長閑な日本の農村風景が色濃く残る上原地区の中心的な担い手である「かみはら山水農園」は幾多の米コンクールにおいて優秀な成績を収めてきました。その「かみはら山水農園」の代表に美味しい米の作り方の極意と地域農業にける思いを聞きます。

また、上原地区は下呂市で初めて地域おこし協力隊を受入れた地域であり、任期満了後もこの地に残ってゲストハウス「ソラノイエ」を経営、2人目の協力隊も田舎レストラン「咖喱奔放」のオーナー兼シェフとして活躍しています。そんな彼らと地元で組織される「かみはらプロジェクト」のメンバー等がプロジェクトの発足と、これからの新規就農者の誘致、支援体制の構築について話してくれます。

- ①かみはら山水農園代表の美味しい米の育て方と地域農業にける思い
- ②かみはらプロジェクトの設立と今後の展望について(白雲座)
- ③ゲストハウス「ソラノイエ」オーナーの移住者目線での新規就農者支援について
- ④田舎レストラン「咖喱奔放」での意見交換会(昼食) ほか



地域の農地を守る「かみはら山水農園」



大人気! 宙君のカレーライス

東地区メニュー

東地区は市内で最も農業支援事業を活用した地域づくりが進んだ地域であり、(一社)ひがし村を早々に設立し、中山間地域等直接支払制度、多面的機能支払交付金を上手に活用して地域一体となった農地保全、景観維持がなされており、新規就農者の受入れ体制の構築も万全です。さらに、農業という枠組みに留まらず、新たに農村という枠組みの中で国が推進する「農村RMO」へのチャレンジも視野に入れた今後の展望を紹介します。

また、東地区で活躍する地域おこし協力隊によるSDGsのカードゲームによる地域づくり研修は誰もが楽しんで地域づくりを学ぶことが出来ます。

- ①(一社)ひがし村の設立と役割、農村RMOへのチャレンジについて
- ②新規就農者の実体験談
- ③SDGsを通じた地域づくり(カードゲームによる研修) ほか



地域の起爆剤となる新規就農者たち



SDGsのカードゲームで地域づくりを学ぶ

馬瀬地区メニュー

下呂市馬瀬地区は、かねてから少子高齢化・人口流出に悩んでいた地域であり、その影響による離農が深刻化問題となっていました。その危機感から交付金組織の一本化、農業法人の設立等を早期に実現し、農地を地域の共有財産と位置付け、地域一体となった農業の取り組みに繋がっています。

近年、日本一の鮎で有名な清流馬瀬川の恵みを受けて育つ米は数々のコンテストにおいて優秀な成績を残しており、同地区では学校行事の一環として子供たちにも米づくりを伝授し、将来の担い手を育てる活動も積極的に行っています。

- ①(一社)馬瀬アグリ設立と運営について
- ②中山間直接支払制度、多面的機能支払い交付金組織の一本化について
- ③「馬瀬ひかり」の生産について
- ④地域おこし協力隊による水辺のレストランでの食事と体験談
- ⑤さんませ工房でのエゴマ五平餅作り体験 ほか

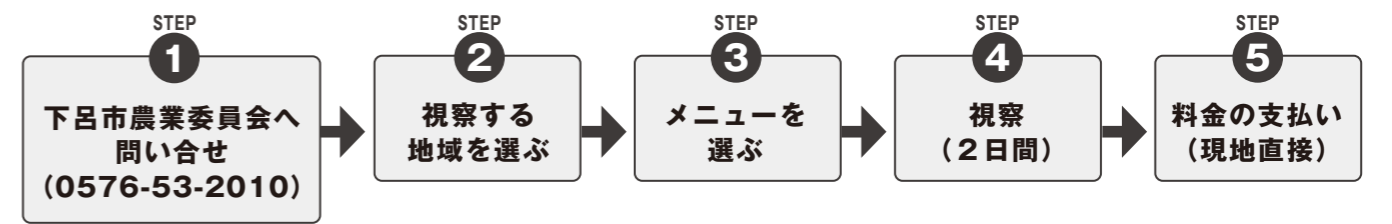


馬瀬ひかり生産組合



「日本一美しい村」馬瀬地域の農村風景

視察申込の手順



※宿泊については各旅館及び、下呂温泉旅館協同組合にご予約ください。 ※視察メニュー料金の支払いは、ご契約の旅行者から直接お支払いください。

我々下呂市農業委員会は地域の農地を守るだけではなく、農業を活用した地域振興を担う「地域の農地コーディネーター」として、今まで以上に地域住民に寄り添った活動を目指していますので、どんな事でもぜひご相談ください!